センダン

べつめい

アフチ、オウチ

26

ぶんるい	センダンか
なまえのゆらい	もともと「せんこのだんご」とみたてそれを間違えセンダンになったといわれている。
きのとくちょう	うみのちかいひあたりのよい場所にはえます。花のいろは、あわいむらさきいろです。
そのた	とりは、たべられるが、人間は食べることができない。

センダン

和名	梅檀	26
別名	アフチ、オウチ	

分類				
	科（APG分類）	センダン科	属	センダン属
	科（旧分類）		属	
	科（旧分類）		属	

名前の由来

・日本の古書では「栴檀（センダン）」は中国の「白檀（ビャクダン）」を指していることであ
和名のセンダンに「栴檀」の字があてられていることが混乱の元となっている。
・センダンの熟した果実を「千個の団子」に見立てて「千団子」というようになり、それが
訛って「センダン」になったと解釈するほうが、由来としてわかりやすい。

樹木の特徴

・ヒマラヤ地方原産といわれる落葉高木。
関東地方以南、四国、九州、沖縄に野生
化している。海岸近くの日当たりの良い
場所に生え、公園樹や街路樹、学校など
に植栽されている。
・花は両性花で、花期は5～6月。本年枝
の基部の葉腋から集散花序を出して
淡紫色の花を多数つける。萼片は卵形
でヤヤ尖り、縁に短毛がある。花弁は
5個で倒披針形、開花時には平開する。
・樹皮は赤褐色で粗く縦割れする。
・葉は互生し、2～3回羽状複葉で、小葉
は卵状楕円形。
・果実は核果で10～12月に黄褐色に
熟す。秋が深まり落葉しても、しばらくは
梢にぶら下がって残るため目立つ。
ヒヨドリやカラスが食べに訪れて散布さ
れ、空き地や道端で発芽～生育する。

用途・その他

・材を林業として利用する試みで、熊本県
天草市で植林されている。苗を植えて
15～20年で木材に製材できる。
・果実は生薬の「苦楝子（くれんし）」「川楝子（せんれんし）」と称して、ひび、あかぎれ、
しもやけなどの外用とし、整腸薬、鎮痛剤として煎じて内服した。樹皮は「苦楝子（くれ
と称して駆虫剤（虫下し）として煎じて内服した。葉は強い除虫効果があり虫よけに利
・果実は人間の食用とはならない。個人差はあるが、実を5個以上食べると嘔吐、腹痛
胃炎、呼吸停止を引き起こす。　　（生薬とは漢方薬を構成する原料）

作成年月日　2021，09，09